

2026年2月6日

原子力規制委員会委員長 山中伸介 様
原子力規制庁長官 金子修一 様
柏崎刈羽原子力規制事務所長 伊藤信哉 様

規制庁・規制委員会を監視する新潟の会
桑原三恵

mie.kuwabara756@gmail.com

953-0041 新潟市西蒲区巻甲 756-15

柏崎刈羽原発 6 号機起動等に関する質問

柏崎刈羽原発 6 号機の起動に係る検査等について質問を提出します。回答は 2 月 27 日(金曜日)までにメール添付でお願いします。

1. 昨年 6 月 30 日に 6 号機で発生した制御棒の警報の原因は、端子台の亜鉛メッキの個所でウイスキーが発生したことが原因でした。ウイスキーは極めて純度が高い金属物質で電気を通しやすいと聞いていますが、亜鉛メッキカ所でウイスキーが発生するという知見を規制に活かしていますか。
2. 昨年 8 月 25 日に 6 号機で発生した 1 本の制御棒の駆動装置の機能停止(引き抜けない)トラブルについて、1 月 8 日の参議院議員会館でのヒアリング時の規制庁担当者の説明への質問を提出し、1 月 28 日に規制庁から回答を得ました。

<質問>

制御棒駆動機構の不具合の原因について、スラッジ等の量はどれほどか、それがどのように不具合をもたらしたのか、なぜ当該 1 本だけが不具合を起こしたのか、10 月 9 日資料に記載がないのはなぜか、という点を含め、東京電力から詳細な説明を受け、その内容を明らかにされたい。また、不具合の原因を評価した文書が別に存在するのであれば、これをすみやかに入手して公開されたい。

<規制庁の回答>

現地の検査官からは、事業者から、令和 7 年 8 月 25 日に柏崎刈羽原子力発電所 6 号機で発生した制御棒駆動機構の不具合の原因については、「傷の原因を調べたところ、ラッチがボールナットにしっかりと収まっていない状態で中空ピストンがガイドチューブ内を下降する際に、ローラーの動きが固く、ローラーがガイドチューブに引っかかったことによるものと判断」「制御棒が引抜けなくなった原因はその引っ掛かりによるものと推定」と聞いております。併せて、**ローラーの動きが固くなった原因についてスラッジの可能性は否定できないと報告があったとの連絡を受けております**。いずれにせよ、原因はローラーの動きが固くなったことであり、当該不具合には対応済みであるとの認識です。また、御質問のスラッジ等の量、不具合をもたらした経緯の詳細等については、当該機器の線量が高いことから更なる分解が困難であり、事業者からはこれ以上の調査が困難であるとの説明を現地検査官が受けて

おります。

上記の回答の下線部は東京電力が昨年10月9日に公表した内容であり、マーカ一部は1月8日のヒアリングで担当者が「スラッジが原因というのは今初めて聞いた」と語ったことを受けて一定のフォローがあったことによる記述だと思います。回答は、私たちの質問には答えずに、「対応済み」として「幕引き」をする内容になっています。放射線量を理由に調査は困難とした東京電力の説明で「幕引き」を「正当化」してもあります。私たちはこの回答を受け入れることはできません。東京電力が「ローラーの動きが固くなった原因についてスラッジの可能性は否定できない」と報告しているにもかかわらず、スラッジを不問に付したことは規制庁の責任放棄です。放射線量が調査を困難とすることは理解できますが、スラッジに関する調査が一切不可能ではありません。駆動機構の機能を停止に追い込んだスラッジの量はわずかではないはずです。そのようなスラッジがどのようにして発生し、駆動機構を機能停止に追い込んだのか、徹底した調査が必要です。原発で発生するトラブルについて、事業者の原因の解明と再発防止策の実施を求め、その妥当性を点検することは規制庁の主要な任務ではないのでしょうか。

スラッジによる制御棒の駆動機構機能停止について質問します。

- ① 東京電力が駆動機構の分解点検で得たデータをすべて提出させ、公開してください。
- ② スラッジの発生源について、東京電力に調査と報告を求めてください。
- ③ 2007年の中越沖地震後の炉内点検において、7号機で1本、6号機で2本の制御棒が引き抜けなくなりました。東京電力に報告を求めてください。

3. 1月21日に発生した制御棒の電動機制御盤の警報は、1月14日にも発生したとのことですが、昨年10月にも同種と思われるトラブルが2件発生しています。

・6号機 改良型制御棒駆動機構の動作確認において、インバータ(直流・交流変換装置)軽故障警報の発生／解除を確認した。当該事象の原因を調査。なお、改良型制御棒駆動機構の機能・動作に影響なし。 2025/10/10

https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/press_conference/kk-np/pdf/2025/20251113kisha.pdf

・6号機 改良型制御棒駆動機構の動作確認において、インバータ(直流・交流変換装置)軽故障警報の発生を確認した。改良型制御棒駆動機構駆動モーター制御盤電源を再起動し警報を解除済み。当該事象の原因を調査。なお、改良型制御棒駆動機構の機能・動作に影響なし。 2025/10/15

https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/press_conference/kk-np/pdf/2025/20251113kisha.pdf

2月4日の規制委員会で、6号機制御棒のインバータは2023年に更新したことが明らかにされましたが、10月の2回のトラブルは設備更新と関係があるのではないのでしょうか。設備更新によるトラブルへの東京電力の対応は十分だったのでしょうか。

4. 中部電力浜岡原発の基準地震動策定に係る不正行為について以下を要請します。

- ① 新規制基準審査に合格した全原発について、基準地震動策定に係る外部事業者とその担当の報告を求めてください。
- ② 新規制基準審査に合格した全原発について、基準地震動策定に使用したデータの一覧を求めてく

ださい

③ 山中委員長は、事業者が提出したデータの不正を見抜くことは不可能だとしていますが、なぜ見抜けなかったのかについての考察は必要です。事業者と規制当局の関係、基準地震動策定に係る規制基準と審査のあり方等、多様な観点で検証し、報告書を公表してください。

④ 上記③の検証にあたって、新規規制基準審査における事業者の不正をすべて明らかにしてください。

⑤ 東京電力が柏崎刈羽原発の免震重要棟の耐震不足を数年(2014年～2017年)にわたって隠ぺいしたのに対して、規制委員会は審査申請書類の再提出を求め、東京電力は数か月も経ずに再提出をして、1年もたたないうちに審査合格となりました。しかし、東京電力はその後2021年に、核セキュリティ重大違反が2件明らかになり3年近い追加検査を受けることになりました。稼働がもたらす利益と安全対策の巨額な費用のバランス上にある原発事業者の状況とこれまでの虚偽・隠ぺい・改ざん・ねつ造の繰り返しを見れば、性善説には限界と無理があると思いますが、性善説でいくのであれば不正に対して厳しい措置が必要です。再発を防ぐことは、規制の劣化を防ぐために欠かせません。再発防止には厳罰が必要です。中部電力には徹底した調査で不正の全体像を明らかにして、審査申請資格を認めないことも含めて厳しい措置をしてください。

5. 規制庁への「民間から受け入れ状況」について原子力資料情報室が「声明 原子力規制委員会は独立性を担保できるよう厳格なルールを構築せよ」を公表しています。実際に内閣官房が公表している「令和7年3月31日 内閣官房内閣人事局 民間から国への職員の受入状況」を確認したところ、規制庁には民間から45人が入っています。

https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/jinjikyoku/jkj_ukeire_r070331.html

そのうち、電力会社では、関西電力2名、東京電力、日本原電、日本原燃、北陸電力、計6人が規制庁に入り、東京電力と日本原電は審査部門に所属し、女川規制事務所に東京電力が、敦賀規制事務所と玄海規制事務所には関西電力が入っています。こんなことになっているのかと驚きました。規制する側とされる側が混在一体の状況で規制の独立性と公正性は守られるのか、大いに疑問です。関係者は狭い内向き集団の中で特権意識に支えられ、現状に違和感はないのでしょうか、私たちから見ると異様な情景です。45人もの民間所属の方々が利益相反の状況で進めていく原子力規制に一層疑念と不信を覚えています。規制庁が45人もの民間所属の方々を受け入れている理由を示してください。

6. 「安全性の重要度」という言葉をよく聞きます。定義と重要度の具体的な内容を教えてください。

以上